

戦前の百科事典に見る看護師，医療について

鳥 居 修 平*

Nursing and Medicine in Encyclopaedia before the Second World War

Shuhei TORII, M. D., Ph. D.

はじめに

医療は従来医療者の視点で行われてきたが，現在はパターナリズムとして批判され，患者，家族の視点，意思が重視されている。では患者，家族はどのような方法で医療の知識を得るのだろうか。現代では様々な手段がある。書物，テレビ，家族友人からの情報，さらにはインターネットからの情報など様々なものがある。しかし一昔前はそのようなメディアも少なく書物に頼ることが多かったと思われる。そしてスタンダードな知識として百科事典はその時代の知の基準であり，体系であった。そこで専門書でなく，一般国民を対象とした知の体系である百科事典が看護，医療などをどのように記述してきたか，またそれぞれの時代の人達が医療，看護，病気をどのように受け止め，啓蒙されてきたのかを調べ，それにより現在の看護，医療の位置づけ，発展を知り，今後の看護教育に生かしたい。

方法

資料は1934年（昭和9年）発行の「国民大百科事典」（国民百科と略す）全14巻，富山房を利用した。さらに，戦争をはさんで20年後の1955年（昭和30年）発行の「世界大百科事典」（世界百科と略す）32巻，平凡社，編集長林達夫，さらに30年後の1988年（昭和63年）「世界大百科事典」編集長加藤周一，そして20年後の「改訂新版世界大百科事典」を参照した。今回は看護婦，看護，病院，医療などで読み解き紹介する。また医中誌を使い百科事典と看護のキーワードで検索すると18件あり，そのうち原著論文は1件のみであった¹⁾。また百科事典と医療で検索すると12件あり原著論文は3件であったが，今回の目的には該当しなかった。

* 看護学部 看護学科

国民大百科事典について

「国民百科大辞典」は全14巻別巻1巻で、1934-38年（昭和9-13年）にわたって富山房から発刊された小項目の百科事典である。B5版で1万2724頁、項目は11万5921項、図は1万5828図（一部カラー）挿入されて、定価は1巻7円ある。現代の価格に換算するとどのくらいの値段がするものかと調べてみた。値段史年表で調べてみると当時の公務員の初任給は55円、岩波文庫は20銭、そしてそば3銭はである²⁾。そこから類推すると現代の価格で1冊2-3万円であろうか。百科事典はまだ庶民には手の届きにくい高価なものであったと思われる。記述はカタカナで横書き、2段組である。今回は項目として看護を含む項目などを検索した。その結果、看護学、看護官、看護長、看護兵、看護婦、看護婦会、看護婦規則、看護法、看護保険が記載されていた。また疾病、病院など関連項目についても拾い上げた。その中には病院船、病院飛行機など戦前らしい項目があった。記述はカタカナなのでひらがなとし、旧字体は現代のものに、難しい漢字はひらがなとし、読みやすいように記した。

1. 看護婦

公衆の需に応じ病者または産褥にある者の看護に従事する女子。地方長官の免許を得、一定の資格を有する者。この免許を得るには地方長官の施行する試験に合格するか、または地方長官の指定した学校、もしくは講習所を卒業した18歳以上の女子でなければならない。地方長官の施行する試験科目は1. 人体の構造および主器官の機能、2. 看護方法、3. 衛生および伝染病大意、4. 消毒方法、5. 包帯術および治療器械取扱法大意、6. 救急処置の6科目である。以上の資格を有せぬが履歴の如何で特に地方長官より免許せられたる者を準看護婦という。詳細なことは大正4年6月内務省令第九号看護婦規則によるがよい。看護婦は地域的に当局の許可を得て看護婦会を組織している。昭和6年末現在の全国看護婦数（準看護婦数を含む）は82798人、うち東京府16444・大阪府8262・京都府3452・兵庫県4735・愛知県3018・神奈川県4306人。（全文）

看護婦を18歳以上の女子と限定している。看護夫という言葉もあったが項目としてあげられていない。試験科目が現在のものと比較すると興味深い。免許は国でなく地方長官から交付されており、現在の准看護師と同様である。試験のレベルがどのくらいかは興味があるところあるが合格率は記載されていない。現在は合格率90%を越している。愛知県の看護婦数は京都に次いで6番目であった。看護婦数8万2928人（上記の人数と若干異なる）の内訳は看護婦7万7868人、準看護婦4930人、看護人130人である³⁾。

看護婦に関しては国民百科は「公衆の需に応じ病者または産褥にある者の看護に従事する女子。地方長官の免許を得、一定の資格を有する者」、世界百科は「厚生大臣の免許を受けて傷病者または褥婦に対する診療上の世話、診察の補助をする人」とある。認可は戦前では地方長官であったものが戦後は国の認可となっている。これは占領国の米国の指導によるものである。さらには世界百科は「医学検査から、患者の身の世話やその他医療に関する事務一般にわたる広範な仕事にたずさわる」「看護は、看護というものが女性特有の、細かい神経と温かい心とに基づいて行わなければならぬことがはっきりと認識され

た」「今日看護の機能は単に病人や老人を世話していた時代より遙かに拡大して，病気の看護のほかに，病気の予防・健康の保持増進・健康教育も含まれるようになってきた。そしてこれらの目的達成のためには，博愛の心から生まれた奉仕の精神と，看護に対する専門的な科学的知識と，熟練した看護技術の3要素が必要である。」と書かれている。戦前では看護の理念は十分には述べられておらず，戦後，病気の予防，健康増進，健康教育が掲げられるようになった。そして女性特有の心遣いが必要と述べられている。

看護婦の役割は冒頭に「公衆の需に応じ病者または産褥にある者の看護」記述されているが，その頃の欧州を見てみると，フランスの衛生省が1920年代に発行した看護婦の宣伝ポスターには絵入りで6つの仕事を紹介している。1. 病院で患者の看護，2. 屋根裏部屋に住む病人の見舞い，3. 新生児を産んだ親の見舞い，4. 子供の健康指導，5. 学校の養護室で子供のけがの手当て，6. 農家で子供の体を洗う。このように欧米ではすでに保健師のような役割も持っていたことが分かる。

国民百科には近代看護の創始者といわれるナイチンゲールについての記述は見られなかった。しかし戦後の世界百科になると看護婦の冒頭に現れてくる。

どのような人が看護婦になったかということとは書かれていない。看護史によれば明治から戦後のある時期まで看護婦の出身地はほとんどが農村であったという⁴⁾。授業料，寮費，食費などを徴収することは少なく，少額ながら給付金を出すことが一般的であったと書かれている。

看護婦という名称は2003年に女性の看護婦，男性の看護師の区別をなくし看護師に統一され，消滅した。

2. 看護官，看護長，看護兵

看護官

陸軍における衛生部下士官の優遇を目的としてに設けられた看護長より上級の官名で3階級あった。陸軍軍医学校に入校せしめて，1年間高等看護に関する学術科を教育し，その卒業した者はおおむね2ヶ月間衛戍病院において勤務を習得する。高等看護術のほか細菌学のおよびその他の病理学的検査，エックス放射線の技術等をも専攻しているから，退職後といえどもその道の職に就くことができる。(抜粋)

看護長

陸軍衛生部のもと 看護その他の衛生勤務に服する者である。上等，一等，二等，三等看護長と4階級がある。2年間在営し，衛戍病院において必要な学術科を習得した者。(抜粋)

看護兵

陸軍において軍隊または病院，その他の衛生機関などにおいて患者の看護その他の衛生勤務に服する。患者の取扱に適し，かつなるべく学力を有する者より選定。一定の軍事学の教育を受け，その後5ヶ月間衛戍病院において看護学を修得する。二等看護兵，一等看護兵，上等看護兵の階級がある。(抜粋)

軍隊における看護を担当する者の説明，階級が詳しく書かれていた。上より官，長，兵である。当然男だけがなれるのであろう。衛戍（えいじゅ）病院とは陸軍病院の旧称である。女性の看護婦について記載はなく，また従軍看護婦という項目はなかった。看護の歴

史に関する記述では年代順に、宗教、戦争、科学を大きな契機とする視点から看護の発達史が説明されている¹⁾。まさしく国民百科はそのような視点でいえば戦争の時代の百科事典であったといえる。

3. 看護学

解剖生理学、衛生学（細菌学を含む）、伝染病学、寄生虫病学などを基礎知識とし、これに一般看護法・治療介助および消毒方法によって実際看護の要諦を会得し、さらに外科的介助・包帯法をはじめとして小児科・耳鼻科・眼科・泌尿科・婦人科疾患などの専門によりそれぞれ必要な事項を研究し、さらに産褥看護法・育児法を知り、救急療法を覚えて急に應ずる素養を有するの要があり、なお近時はさらに食餌療法の知識も切に要求されるようになってきた。

看護の要義 1. 看護の心得、昔から「一に看護、二に薬」というように、看護は治療上医師の診療と相まって大切なことである。それには（い）医師の診療方針に背かぬこと（ろ）患者の苦痛をなるべく軽減すること、（は）伝染病の場合病毒を周囲に蔓延せしめないよう努めること。2. 患者に対する看護者の態度、（い）保護者を以て任ずること、（ろ）監督者たること、（は）慰安者たること、（に）患者の感情を巧みに支配すること、（ほ）自分の感情は患者に表さぬこと、（へ）言語操作を慎むことが緊要。3. 看護の知識、看護を為すものは先ず健康体の体温・脈拍・呼吸・尿利・便通ならびに睡眠の状態を知悉し、患者の現在症状がいかに健康体と相違せるかを観察する必要がある、而してその相違点を見出すためには医学的な方法によって体温測定法、・脈拍測定法などの知識を必要とする。4. 看護の手技、患者の看護をなすには種々の手技を必要とする。これを「治療介助」といつているが、注射法・灌腸法・吸入法・巻法・導尿法・胃洗浄法・按摩法であって、いずれもその理論方法を会得し、かつ熟練を必要とする。しからざれば患者に苦痛を与えるのみならず病症のためにも不幸を招くことになるので、極めて大切なことである。なお近時電気療法例えばディアレルミー・人工太陽燈が発達して、さかんに応用せられ、これまた看護上必要なるものとなってきた（全文）

必要基礎科目として解剖生理学、衛生学（細菌学を含む）は現代でも同じで重要である。伝染病学、寄生虫病学はほぼ克服され、見られなくなったが、近年また新興感染症、そしてグローバル化に伴い新たな伝染病などが注目されている。現代では看護の理論的基盤として身体の構造と機能、病理学、疾病・治療論を学んでいる。また消毒方法、外科的介助・包帯法などあるが、包帯法は現代ではなくなってしまった。これは包帯が伸縮性の素材となり、包帯がゆるむことがほとんどなくなったこと、また使い捨てになったことによる。産褥看護法・育児法は看護婦の活躍の場であることは今も変わりはない。看護の心得で筆頭に「医師の診療方針に背かぬこと」とあるが、現在では看護師も治療方針の話し合いに参加している。「救急療法、近時はさらに食餌療法の知識も切に要求されるようになってきた」、これは今も変わらないが医師、管理栄養士も含めたチーム医療として活発に行われている。電気療法の利用が盛んになってきたため項目として説明があるが、現在まで使われているものはない。その効用は疑わしく、米国の資料館で見られることがある。

4. 看護法

病者看護は適切な治療と共に極めて重要な事柄で，その優劣如何は疾病の経過に重大な関係がある。〈例〉発汗後にはしばしば感冒に侵されやすきにかかわらず適当な処置を誤り，あるいは両便排泄の始末，薬剤の用法，出血後の注意等を怠るときは，為に症状を悪化し，その転帰を不良ならしむることがある。看護人は患者の床側にありて常に患者の臥位に注意し，薬剤，飲食物を適宜に与え，必要な場合，患部に罨法を施し，両便・嘔吐・発汗・咳嗽等の場合には患者を介輔し，その苦痛を軽減せしむることに注意する。重症の場合は夜中も交代，十分な看護をしなければならない。看護中の所見，例えば睡眠・両便・発汗・悪寒・脈拍・呼吸・体温等の状況を少なくとも1日数回観察し，これを日誌に記録し医師の閲覧に供する。病室の状況も著しく患者の気分を左右するから病室は努めて清潔に保ち，花卉・盆栽を飾る心がけを必要とし，さらに必要に応じて室内家具・畳等に適当な消毒法を施し，絶えず室内の温度・湿度・賊風に注意し，十分な換気をはからなければならない。(全文)

病院あるいは在宅での看護法であろうか。必要な項目が適切に書かれており，心がけとして大切なことである。また記録の重要性をあげている。花卉の病室への持込みは禁止されているところもある。ちなみに賊風はすきま風のことである。

6. 看護婦会

内務省令たる看護婦規則に準拠し，各府県令として制定発布せられている細則により警察の許可のもとに設立されている看護婦の団体または組合。経営者は5年以上の経験者たる看護婦に限られる。昭和8年末現在東京府下には335，全国では1000余に及ぶ。(抜粋)

看護婦の派遣団体のことと思われる。病院に入院した場合，現在のように完全看護でなく，家族，あるいは私的に雇った看護婦が看護，介助についた。夏目漱石の文章の中にはしばしば派出看護婦のことが出てくる⁵⁾。

7. 看護婦規則

看護婦の取締規則。主たる内容は看護婦の意義・資格・資格・試験免許免状・義務・本令違反に対する罰則等。準看護婦・看護夫にも準用，大正4年内務省令(抜粋)

現代の保健師助産師看護師法に相当するものである。看護行政は従来内務省で扱われていたが1938年(昭和13年)に誕生した厚生省に移されるようになる。保健婦規則は1941年(昭和16年)成立した⁴⁾。

8. 産婆 [英midwife 独Hebamme]

満20歳以上の女子の職業で妊産婦診察・分娩介助・褥婦手当をする者(沿革)伝説＝神功皇后御腹帯を伝えるという桂女(かつらめ)は足利時代以前に於いては助産を司ってきた。正徳3(1713)頃には(山島辺境の産婦は洗母(とりあげうば)の手を借らず)というからこの職業は地方により専門化しておらず，また技術も常識の範囲を脱していなかった。明治13(1880)頃東京浅草紅杏塾で始めて養成した。明治32年10月1日産婆規則布かれ，試験が必要となり，大正元年養成規則が定められて

より科学的助産術普及するに至った。〈修得法〉指定産婆養成所卒業。修業年限2ヶ年。短期産婆養成所6ヶ月-1ヶ年を卒業し、地方長官の免許を得たものでなければ開業できない。資格：身体強健・大胆細心・中指長7cm以上。知能指数：90-100。教育：高等小学校卒業以上。(全文)

産婆は昔より女性にとって自立した専門的な職業である。その資格・資質は具体的で、「大胆細心・中指長7cm以上」と興味深い記述である。看護婦の項では資質については述べられていなかった。一方その時代のブリタニカ11版(1910-11年)には看護婦に要求される資質として、身体的強靱、健康、清潔、良質な気質、自己コントロール、知性、義務感があげられている¹⁾。産婆という名称は1947年(昭和22年)産婆規則が助産婦規則に改まり、さらに翌年の保健婦助産婦看護婦法の制定により助産婦という名称になり定着した。さらに2002年(平成14年)助産師に改称された。

9. 産婆学

産科学の一部分で妊娠・分娩・産褥・初生児に関する理論及び法律にて産婆に許されたる範囲に於ける処置法を講ずる学科である。産婆試験規則に産婆学として、学説に第一正規妊娠分娩及びその取扱法、第二正規産褥の経過及び褥婦、生児の看護法、第三異常妊娠分娩及びその取扱法、第四妊婦産婦褥婦生児の疾病、消毒の方法及び産婆心得、実地試験もしくは模型試験があげられる。(全文)

10. 疾病〔独 Krankheit〕

健康でない異常生活機転をいう。もちろん健康と疾病の境は明らかなものではないが、ある程度を超えて来ると両者を判断することができる。疾病は〈異常の生活機転〉である以上、それ自身の生活を展開していく。これが疾病の経過である。経過の長さによって急性と慢性の疾病に大別する。一般に急性の疾患は急に、しかも激しく始まる。急性という概念にこの意味が多分に含まれている。疾病の経過を見るに、大体その峠というものがある。そのときを極期と名付ける。それが過ぎると疾病が徐々に快方に向かう(回復期)。疾病には多くの場合発熱を伴う。熱の状態を見ることが医学において重んぜられるのは、この点から疾病の経過をうかがうことが可能なことが多いからである。回復期に入って再び初期におけるような症状が現れてくるのを再発という(ぶりかえし)。一つの疾患にかかっている者が同時にもう一つ他のの疾患にかかっていることがある。この場合後者を合併症という。疾患の結末すなわち転帰は治療するか、さもなければそのまま持続してその疾患でか、あるいは他の原因による患者の死を以て終わるか二通りしかない。治療は常に完全に行われるとは限らない。むしろ不完全なものが多い。ここに不完全というのは疾病としてはその生活機転が終わったにしても、その結果としてその部分の機能が十分完全には復旧しないようなのをいう。例えば皮膚に受けた傷が痕跡なくなれば、完全な治癒であるが、後に傷のあと、すなわち癍痕が残ったなら、それは不完全な治癒である。(全文)

病気という項目はなく疾病としてあげられている。病気の一般的説明で現在でも通ずる解説である。そして発熱を重要なメルクマールと考えて説明している。感染症の時代には説得力があったのであろう。現在のように「生活習慣病」という概念はない。そして「治

療は完全に行われるものでない」と述べている。これは現在でも言えることであるが、現在では患者と医療者の治療に関する理解度はかなり乖離していると思われる。国民百科の時代における医療者への信頼度についてはどのようなものであったのか大変興味深い。見出しの項目にドイツ語のみがついているのは疾病だけである。産婆，病院は英語，ドイツ語の順である。病気についてはドイツに多く学んだためと思われる。

11. 病院 [英hospital 独Krankenhaus]

歴史的にいえば初め病者は住宅内に置き治療されたものであるが、大手術を要しあるいは慢性の疾患に対してはこれを収容する特殊の建物が必要となるのは極めて自然の勢いであって、且つ伝染病の突発流行の際などには特にその必要がある。これが中世紀時代欧米における病院の濫觴。例えばベルリン最古の病院は1709年ペスト流行当時に創立された。その後医術の進歩，専門分科の発達とともに理学的療法の流行をみるに至り，経験ある医術と整頓せる器械，病室その他の設備を有する近代的病院が生まれるに至った。〈病院の建築様式〉廊屋式と蛾屋式と混合式の3種。廊屋式とは病室互いに隣接しこれに共通せる廊下があつて，全体の形が直線形・H形・馬蹄鉄形まれには角形・十字形である。蛾屋式とはなるべく建物を数棟に分ち，各棟はおのおの二階三階の病棟であつて，各棟は建物の高さの約2倍に等しい間隔を有し，多く屋根廊下によって連絡される。混合式とは一建物中に両式の建物を配合した形である。一病室の適当な広さは150m²以上とみられている。我国における病院制度は漸次その目的に応じて分岐専門化し各種の形態が現れるに至った。大学附属病院の如き各科を総合した全科病院を始め，内科・外科等を主とする専門病院があり，さらに特殊なものに，精神病院・結核病院・伝染病院・癩病院等がある。最近では市民病院，警察病院，通信病院等のごとく，特殊な市民階級または職業階級に専ら利用せしめるための病院制度が，大都市を中心として発達を示し，地方では産業組合法によって設立された医療利用組合病院なるものが非常な勢いで増加しつつある。(全文)

病院数，患者収容定員，入院患者延べ数に関しては昭和5年から年次推移が表として掲げられており，昭和9年のものを記載する。病院数は公立102，私立2725，患者収容定員は公立1万125人，私立7万7162人，入院患者延べ数は公立218万4921人，私立1050万4423人である。

建築様式の分類はなるほどと思った。適当な広さがあげられているのが興味深く，比較検討したい。個室と大部屋の割合はどうであつただろうか。組合病院の急激な増加が注目される。手術室は以前には中央化されておらず，各科で手術室を持っていた。つまり各科は医師，看護婦も診療科で独立していたのである。鮮明な16枚の写真が，2頁にわたりのっており，病院の外観から内部まで状況がよく分かる。

病院および医院（医師法）

医師法に於いて病院というときは，官公立の治療所を指摘し，私立のものは単に診療所・治療所と称している。東京府では患者10名以上収容するを病院という（抜粋）
病院（組織）

病院は大小にかかわらず大体次のような組織。先ず新来の患者は受付で自分の診療を受くべき専門科を定め診察料を納めて診察券をもらう。次に待合室で診察の順番を

待つ。診察室は各科によってその設備を異にし、外科的科には手術室の設備があるのが普通。診療を受けた患者は医師の与えてくれた処方箋によって薬局から薬を受け薬価・治療費を支払って病院を退出する。以上は外来患者の場合であるが、入院患者の場合は入院に当たってその病院の入院規約を守る旨の証書を差し出し、その他必要な手続きを済ませて病室が提供される。病室は各等級に分かれ、それぞれ病院附属の看護婦が随時必要な注意・処置をしてくれるが、1人の患者に専任していないから病気の重さによって適当な付添人なり派出看護婦を要する。入院料はたいいてい1週間毎か、10日毎に納入する。病院には別に医局があり、これは医員の控室で、入院患者に関する一切のことがここに輻輳する。入院患者は毎日受け持ち医員の診察を受けるほか主任者の直接診察を受けるのが普通。これを回診という。医員と主任者の関係は各専門科または個人的考えによって一様ではない。入院患者のためには病室と連絡の取れたところに診察室があり、場合によって入院患者はそこに運ばれて処置を受ける。病院から出るのを退院という。入院中不幸死亡したものは死亡室に移され適法の処置を採る。伝染病患者のため隔離病室の設備のあるところもあるが、普通専用避病院がある。(全文)

一般の人が病院にかかる際の手順が丁寧に述べられているのが興味深い。医員と主任者の関係、医局のこと、そして派出看護婦の件は必要事項であったのだろう。

12. 病気見舞い

病人の容態を尋ね病人および家族の心配を慰め、かつ激励してその回復を速やかならしめ、全快を祈る誠意をあらわすること。自身訪問するのが正式、且つ最も誠意の籠もった仕方であるが、やむを得ぬ場合は代理人または書面を以てする。病人に面会を強要するのは非礼。この場合は先方の家族に面会し、様態および経過を聞き、見舞いの言葉を述べて慰問し、病床には臨まぬのを普通とする。もし先方から望まれて病人に面会する場合は、特に言語・動作を静かにし、病人の神経を刺激せぬよう、また長座を避ける。病室に入り見舞う場合は、枕元に接近するを避け、側面適度の場所から静かに慰問の言葉をかける。また病人の見える範囲内で付き添いの家人および看護婦等と低声で談話したり、耳語する等は禁忌。病院に入院の患者を見舞うときは、規定時間に赴き、主治医・看護婦・付き添いの家族等に容態を問い合わせ後、見舞いの言葉を伝言して帰るか、あるいは指図に従って静かに面会する。無断で病室に通ずるがごときは非礼。伝染病の場合は病院といわず家庭といわず訪問せず、書面で見舞う礼をとる。すべて病気見舞いの訪問には華美な服装を避け、言動を慎み、不吉の語を発したり、見舞い品に四の数を送ったりせぬこと。なお病気見舞いを受けた場合は全快後当人自身訪問するか謝状を送るかして答礼するのが礼。病後健康上の関係および交際の程度によっては代理人を使わしても差し支えない。見舞い品を受けた人びとに対しては赤飯に鰯節等を添えて返礼するのが普通。(全文)

こんな項目が百科事典にのっているのに驚いた。百科事典が生活の習慣、礼節の指南書の役目を果たしていたのであろう。文化の典型の1つと考えたのか。病院への入院、見舞いが特別の世界であった時代なのか。返礼には赤飯に鰯節等を添えるのは普通と書かれているが、どこまで浸透していたのだろうか。

13. 医療妨害取締

まじない，祈り，呪い，お札，神水等を病者に与え，その迷信の結果科学的医療を妨害し，疾病者の治療を困難ならしめるのでこれを取締っている。警察犯取締令（全文）

こんな項目がのっているのも啓蒙書としての百科事典らしい。

14. 病院船，病院飛行機，病院列車

病院船〔英hospital ship〕

ジュネーブ条約の原則を海戦に応用するため1899年（明治32年）ハーグに於いて締結されたる条約に，病院船の具備すべき条約が掲げてある。使用に先立ち船名を交戦国に通知するなど。外部を白く塗り，決められた旗を掲げる。（抜粋）

病院飛行機

患者を輸送または手当てをする飛行機。（抜粋）

病院列車

戦地に於いて重症患者または伝染病患者等を輸送するために編成する特別列車。管理室・病室・薬室・手術室・滅菌室・消毒室・包厨室・物置等区分し患者の収容・治療・看護に従事する軍医・看護員が乗り込む。（抜粋）

病院船は現代でも高度な設備をもった船が建造されている。飛行機を利用した医療はオーストラリアでは「フライングドクター」として患者移動に1928年から行われていた。現代では「ドクターヘリ」として病人の救急搬送に活用されている。病院列車は現代のロシアでも走っているようで，ナショナルジオグラフィック日本版に紹介されていた⁶⁾。

まとめ

その時代の知の体系であり，一般の人達が接することのできた，戦前の百科事典「国民大百科事典」，（1934年発行）の中から看護，医療の関する項目を読み解いた。現代と比べて看護，疾病，病院に関してかなり違いがあった。また戦争に関係する項目が多く，病氣見舞いなど生活習慣までが記載されていた。今後はその他の資料と比較し，人びとへの影響を検討したい。

本研究は平成24年度 看護学部研究助成（学園研C）の援助を受けた。

文 献

- 1) 江藤裕之，岸利江子：Encyclopaedia Britannicaにおけるnursingの記述について 過去100年間に出版されたBritannica諸版のnursing記述の比較，長野県看護大学紀要，7，51-59，2005
- 2) 週刊朝日編集部：値段史年表，朝日新聞社，1988
- 3) 新村拓：日本医療史，吉川弘文館，240頁，2006
- 4) 杉田暉道（著者代表）：系統看護学講座 別巻 看護史7版，医学書院，2011
- 5) 立川昭二：臨死のまなざし，新潮社，144頁 1993

鳥 居 修 平

- 6) ジョシュア・ヤファ：辺境の命を支えるロシアの医療列車，ナショナルジオグラフィック日本版，2014年6月号，118，2014